
携帯電話料金と接続料等の関係の検討
に関する追加質問に対する回答

2022年3月28日
株式会社NTTドコモ

1. 国際ローミングに係る費用（辻座長）

（1）国際ローミングを基本料金内で提供するプランについて、国際ローミングに係る費用の計上についてどのように考えるか。

回答

- モバイルスタックテストの目的が第二種指定電気通信設備に係る接続料等の水準の妥当性を検証することであることを鑑みれば、国際ローミングは第二種指定電気通信設備の役務でないことから、本検証の対象外とすべきと考えます。

2. 接続料の換算（佐藤構成員）

（1）MVNO委員会が提案したデータ接続料の換算方法についてどう考えるか。他のより合理的な換算方式があるか。

回答

- MVNO委員会が提案した換算方法は、コストの一部が考慮されない構造であるため、適当ではないと考えます。

2. 接続料の換算（佐藤構成員）

（2）音声接続（プレフィックス自動付与）と音声卸は契約社数においてどのような割合で利用されているのか。

回答

構成員限り

- 音声役務を提供しているMVNO 社のうち、 社に対して音声接続（プレフィックス自動付与）を提供しております。また、 社と音声接続（プレフィックス自動付与）の提供に向けた協議を行っております。
- なお、他MNO配下のMVNOを除くと 社となり、 割のMVNOが音声接続（プレフィックス自動付与）を利用しております。
- 一方、本検証に当たっては、契約社数ではなく、より市場における競争実態に近いエンドユーザの数（契約数）を用いるべきであり、当社は、契約数ベースでMVNOの約 割が接続を選択されている状況です。

3. 割引の反映方法（佐藤構成員）

（1）家族割等の割引について具体的にどのような計算方法が適当であるか。事務局が示した算定方法（割引が適用される回線数と適用されていない回線数を加重平均して、1 ユーザ当たりの割引相当額を算出）のメリット、デメリットを示し、貴社で考えている具体的な計算方法を提案してください。

回答

- 当社では割引サービスによって、割引総額が料金プラン毎に把握できるものと把握できないものが存在します。
- 割引総額が料金プラン毎に把握できるものは、対象プラン毎の総収入額から対象プラン毎に適用された割引総額を控除する方法が適当と考えます。
- 割引総額が料金プラン毎に把握できないものは、対象プラン毎の総収入額から対象プラン毎に適用された割引が把握できない割引額に対する当該対象プランの契約数の比率を割引総額に乗じた割引額を控除する方法が適当と考えます。
- なお、ハート割引及び子育てサポート割は、顧客獲得や競争優位性を高めるためではなく社会福祉を目的としていること、また、受付時に身体障がい者手帳や児童扶養手当受給者証等を確認しており申込できる者が限定されていること、から考慮する必要はないと考えます。

<計算式>

料金プラン毎に適用された割引総額が把握できるもの	料金プラン毎に適用された割引総額が把握できないもの
$\text{対象プラン毎の総収入} - \text{対象プラン毎に適用された割引総額}$	$\text{対象プラン毎の総収入} - \text{対象プラン毎に適用された割引が把握できない割引毎の割引総額} \times \frac{\text{対象プラン契約数}}{\text{割引対象プランの総契約数}}$

3. 割引の反映方法（佐藤構成員）

（2）固定通信とのセット割を反映させる場合、具体的にどのような計算方法が考えられるか。

回答

- 現在、競争ルールの検証に関するWGで光セット割の割引額について光事業単独での検証を進めていることから、本検証において考慮する必要はないと考えます。

3. 割引の反映方法（佐藤構成員）

（3）非通信サービス（電気等）とのセット割のプランについて、同等の非通信サービスと通信を個別に契約した場合の料金とセットで契約した場合の料金はどうなっているか。また、割引の反映にあたり具体的にどのような計算方法が考えられるか。

回答

- ドコモでんきは、電気の利用料金に対してポイントを付与する仕組みとしております。①個別で契約した場合と、②通信とセットで契約した場合は還元率が異なっております。例えば、ドコモでんきBasicは①2%還元、②3%還元であり、差分は+1%となります。
- ドコモでんきは、その利用料金の多寡により付与する経済的利益（ポイント）が変動すること、及びドコモでんきの利益で当該経済的利益（ポイント）を負担していることから考慮する必要はないと考えます。